

邦楽の世界へ

日本の伝統音楽、邦楽（純邦楽）。日常生活ではじっくり目にする機会こそなかなかありませんが、お正月に演奏を耳にしたこともあるのではないのでしょうか。今回は、邦楽の演奏で主に使われる楽器を紹介し、邦楽をより身近に感じてもらえればと思います。（萌葱）

箏（こと・そう）

代表的な和楽器の1つで、13本の絃をもつ楽器。

爪と呼ばれる道具を右手の親指・人差し指・中指にはめて、爪で絃をはじくことで音を奏でます。爪で押し出すように演奏するだけでなく、絃に垂直に爪を動かして長音を出すトレモロや指で絃を持ち上げるピッチカートという奏法もあります。さらに、左手を使って一時的に音を変える押し手など、右手だけでなく左手も演奏に使われます。

13本の絃にはそれぞれ箏柱（ことじ）がたてられており、箏柱を左右に動かすことで音の高さの調節（調絃）ができます。

◀箏柱



知識 琴との違い

「こと」の読みでよく使われる文字には「琴」もありますが、厳密には箏とは違う楽器！ 箏には箏柱があるのに対し、琴には柱がなく、左手で絃を押さえることで音の高さを調節します。

三絃（さんげん）

三味線とも呼ばれる日本の絃楽器。

基本姿勢は右手に撥（バチ）をもち、左手で三絃を構えます。撥で絃を上から下に押し出すようにして音を奏でるほか、下から上に掬いあげるスクイ、左手で絃を弾くハジキなどの奏法も。

3本の絃は向かって左から1の糸・2の糸・3の糸と呼ばれ、1の糸が最も太く低い音、3の糸が最も細く高い音が出ます。絃はそれぞれ決まった音に調律されており、左手で絃を抑えることで音の高さを変えられます。



知識 地唄

「地唄」は、三絃の演奏を伴奏に「唄」を中心とした音楽的な分野です。「唄」では歴史上の出来事や恋愛などが唄われます。地唄の他に、長唄や浄瑠璃など、歌舞伎や人形浄瑠璃といった日本の伝統芸能に不可欠なものも！



尺八

箏・三絃とは異なる、木管楽器の1つ。

「尺八」は中国から伝来した楽器です。1尺8寸の長さの楽器だったことからその名が付けられており、1尺8寸は中国で基準とされている音を出すのに必要な長さだったと言われています。現在では約30cmのものから90cmを超えるものまで多様な長さの尺八があります。

表に4つ、裏に1つ、計5つの指穴があいており、指で穴を押さえながら演奏します。



知識 1本の竹から1本の尺八に

尺八は竹から作られていますが、「菅尻（カンジリ）」と呼ばれる部分は竹の蕪（カブ）を残しているため、1本の竹から作ることができるのは1本だけ。古くは1本の竹をそのまま用いていましたが、現在では1本の竹を中間部で切断して作られており、中継によって上管と下管に分割することができます。

Column

そもそも邦楽とは？

広義には雅楽や能狂言なども含めることもあります。一般的には江戸時代以降の箏・三絃・尺八を使用した音楽のことを指します。また、演歌やJ-POPを意味する邦楽とは区別して、箏・三絃・尺八の音楽を純邦楽と呼ぶこともあります。

序破急

邦楽において曲の構成の基本となるのが「序・破・急」という思想です。これは、全ての物事には導入・展開・終結が存在するというもので、もとは雅楽や能で用いられていた概念です。起承転結と比較すると、序は起、破は承転、急は結を示していると言われています。曲全体が序破急の構成のこともあれば、部分部分にその構成が見られることもあります。

この音とまれ！

KO NO O TO TO MA RE

箏などの和楽器を扱う部活、箏曲部をテーマとした漫画家アミューの連載デビュー作。

作者：アミュー
出版社：集英社

あらすじ

先輩が卒業し、時瀬高校箏曲部を1人託された2年生倉田が新入生獲得に奮闘するなか、入部希望者として現れたのは札付きの不良新入生、愛（チカ）。初めこそ部を荒らされまいと愛を拒絶する倉田だが、愛の箏にける想いを聞いて彼を箏曲部の部員として受け入れる。箏曲の表現の美しさはさることながら、それぞれ事情を抱える部員たちが友情を深めていく青春ドラマからも目が離せない作品です！

ここ聴いて！

作者であるアミュー先生自身が箏に造詣のある方で、作中での箏の描写や、曲や音の繊細な表現には目が惹きつけられます。作中には多くの楽曲が登場しますが、そのうちの4曲、「龍星群」、「久遠（くおん）」、「天泣」、「堅香子」はアミュー先生のご家族がこの作品のために作曲した完全オリジナル楽曲となっています。琴線に触れる、とはまさにこのこと。公式YouTubeチャンネルに演奏動画が上がっているものもあるのでぜひ聴いてみてください！



▲「この音とまれ！」1巻表紙

次ページでは京都大学で邦楽活動をしている邦楽サークル叡風会についてご紹介します！

叡風会

厳しい中に和やか味のある比叡山から吹く風。そんな意味を名前の由来にもつ京都大学邦楽サークル、叡風会。大正7年の創立以来100年にもわたり純邦楽を奏で、その魅力を発信し続ける叡風会の皆さんを取材してきました。(萌葱)

※学年や人数規模は2024年2月時点のものです。

叡風会について教えてください

— 叡風会は100年以上の歴史をもつ邦楽サークルで、箏と尺八、三絃を扱っています。約20人の1・2回生が主な現役部員として活動しており、上回生も15人ほど在籍しています。中高で箏曲部に所属していたり、小学生から箏を始めて準師範の資格をもっていたりと邦楽経験のある会員もいますが、大学から邦楽に触れる人が会員のほとんどを占めています。音楽自体初めてだという方も毎年数人いますね。会としては3つの楽器を扱っていますが、基本的に在籍中は1人1つの楽器に専念して練習します。

普段の活動はどのように行っていますか？

— 個人練習と外部の先生からの指導ですね。私たち叡風会は学生集会所にBoxを構えていて、24時間好きな時間に練習することができるほか、月・金・土にはプロの先生方がいらして、週に1回個別で指導を受けることができます。指導に来てくださる先生は3名いらっしゃいますが、お一方は50年間叡風会で指導を続けられている先生、もうお二方は叡風会のOBで卒業後にプロに進まれた先生方になっており、叡風会の歴史を感じてもらえるかと思います。演奏会が近づいてくると、同じ曲を演奏する仲間同士で時間を合わせて集まり、合奏練習も行います。

活動する上での目標はなんですか？

— 叡風会では新歓や6月の部内演奏会、他団体との合同演奏会、1月の新年演奏会などに年に数回演奏の機会があります。新年演奏会には、毎年新入生が演奏する恒例の曲、「八千代獅子」があり、新入生にとって初めての古曲の演奏の舞台になっています。そんななかでも一番の大舞台は11月に開催する定期演奏会です。文化芸術会館を借りて一般のお客さんにも演奏を聴いてもらう機会、ここを目標に練習しています。定期演奏会はおおよそ8曲の演奏からなり、演奏する曲の選定も自分たちで行っています。トリを飾る曲は毎年、大合奏曲になっています。他の曲では多くても5・6人での演奏ですが、この大合奏曲では30人を超える奏者が舞台上に揃います。会員全員と同じ曲を演奏できるのは1年でこの1回きりであり、大合奏曲は思い出の曲ですね。



▲定期演奏会での大合奏

箏四重奏

ふなかわ としお
作曲：船川利夫

箏2パート、十七絃（17本の絃をもつ箏の一種）、尺八で編成されており現代曲最難関とされる曲。定期演奏会にむけて3・4か月練習するもなかなか合奏を形にするのは難しく、夜中に集まって練習したのも今ではいい思い出に。

邦楽の魅力について教えてください



— 伝統音楽っていいね、と言われることが多いですが、個人的には伝統が、というよりも三絃っていう楽器が好きですね。古曲も初めて聴いた時は眠いと感じたこともあったけど聴いていくうちに好きになっていました（笑）好きな曲を好きな楽器で弾いている、ということがとても楽しいですね。特に古曲だと演奏に加えて唄があるのですが、まさか自分が、と思っていたことでも経験がないことを追求していくことにもまた良さがあります。（会長・三絃）



▲Boxでの練習風景



— 箏を始めたきっかけは親に連れられて、でした（笑）お箏は音域が広いし音数も多くて、楽曲の分野も広いのが楽しいところです。（2回生・箏）



— 小説にでてくる人物が箏を弾いている場面が印象的で自分も箏に触れてみたいと思い入会しました。音楽経験はなかったのですが、今は音楽そのものがすごく楽しいです。（1回生・箏）

読者の方にメッセージをお願いします！

— 堅苦しく思われそうな邦楽サークルですが、アットホームな雰囲気楽しく活動しています。年中入会を受け付けていますし、どの学年も大歓迎です。定期演奏会にもぜひお越しただけたらと思います！

ホームページ・SNSでは最新情報を発信中！

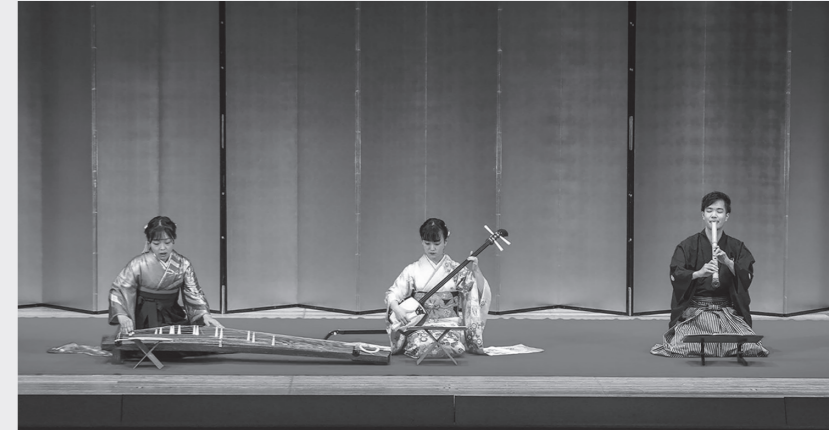
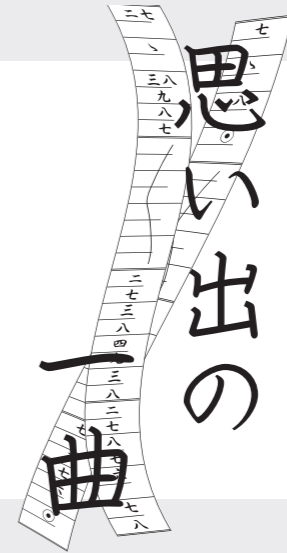
◎HP 京大叡風会 sites.google.com/view/eifukai/

◎X 京都大学邦楽サークル叡風会 @Kyoto_U_eifukai

地唄芝居物のなかでは最古典のひとつ。人間の女に化け、ある男と契りを交わし子供までもうけたものの正体がぼれて森に帰る狐とそれを追いかける子供という切ない話を、三絃の音色と唄で演奏する。三絃にしては激しい運指だがその分やり切ったときの喜びはひとしお。

こんくわい

きしの じろうさ
作曲：岸野次郎三



▲左から箏、三絃、尺八の演奏の様子